

『米原万里展』(5/20(金)～26(木) 東京・八重洲ブックセンター本店)は無事に終了いたしました。

ご来場くださったみなさま、ありがとうございました。

今回はこの数年各地を巡回してきた展示に加え、米原万里の大学卒業論文や、最近見つかった若いころの作文のコピーを置くことができました。

会場内には万里が2003年に行った講演の音声の流れ、多くの来場者が「米原万里の世界」をゆっくり味わって行かれたように思います。

書籍のコーナーでは全著作と合わせて、山形県の遅筆堂文庫のみで取り扱っている「米原万里展図録」も販売いたしました。

没後10年経っても、全ての著作が出版され続けている作家は珍しいといわれる中、来場者数、本の販売数とも会場の過去の記録を大幅に塗り替えたそうです。八重洲ブックセンターでは引き続き6月いっぱいまで、1階と5階の売り場で米原万里フェアを展開してくださいませ。

あらためて『米原万里没後10年フェア』にかかわってくださったすべてのみなさまに、心よりお礼申し上げます。

2016年5月 井上ユリ

..... 心に効く愛と毒舌

米原万里没後10年フェア

2016年5月20日(金)～5月26日(木)
八重洲ブックセンター本店 8階特設会場

10時～20時

※初日5月20日(金)は19時終了。
特別催事(トークショー)開催中
(5月21日13～16時・5月22日13～16時)は、
企画展は閉場します。



豪快にして大胆、下ネタとユーモア、美味しいもの、毛深い家族をこよなく愛していた——。
ロシア語会議通訳、エッセイスト、作家として活躍した米原万里さんが亡くなられて10年。
決して長くはない56年の生涯に書かれた著作は、
今も愛され、広く読まれつづけています。
その才能と人柄を偲び、米原万里の生涯、作品を
たどる回顧展、待望の都内初開催!

米原万里 (よねはら・まり)

1950年生まれ。ロシア語会議通訳を経て、作家に。59～64年、在ブラハ・ソビエト学校に学ぶ。東京外国語大学ロシア語学科卒業、東京大学大学院露語露文学修士課程修了。主な著書に『不実な美女か貞淑な醜女か』(読売文学賞)、『魔女の1ダース』(講談社エッセイ賞)、『嘘つきアーニャの真つ赤な真実』(大宅壮一ノンフィクション賞)などがある。2006年5月逝去。

特別催事

佐藤優さんトークショー

文庫『偉くない「私」が一番自由』刊行記念



5月21日(土) 14時～15時
八重洲ブックセンター本店 8階特設会場

佐藤優 (さとう・まさる)

1960年生まれ。作家・元外務省主任分析官。同志社大学大学院神学研究科修了。米原万里とは外務省時代にロシアで親交を結んだ。主な著書に『国家の罨』(毎日出版文化賞特別賞)、『自壊する帝国』(大宅壮一ノンフィクション賞、新潮ドキュメント賞)、『交渉術』など。

※トークショーの後、ご希望があれば『偉くない「私」が一番自由』をお買い上げのお客さまに登壇者がサインいたします。他の本やお持込みの本、色紙等へのサインはできません。

井上ユリさんトークショー

インタビュアー・平尾隆弘
(前・文藝春秋代表取締役社長)

単行本『姉・米原万里——思い出は食欲と共に』刊行記念



5月22日(日) 14時～15時
八重洲ブックセンター本店 8階特設会場

井上ユリ (いのうえ・ゆり)

1953年生まれ。料理研究家。米原万里の三歳下の妹。北海道大学卒業後、高校の理科の講師を経て、大阪あべの辻調理師学校入学。北イタリアのレストランで研修し、帰国後は自宅でイタリア料理教室を開く。87年、作家の井上ひさしと結婚。著書に『今日からわたしは一流シェフ』、編著書に『米原万里を語る』。

※トークショーの後、ご希望があれば『姉・米原万里』をお買い上げのお客さまに著者がサインいたします。他の本やお持込みの本、色紙等へのサインはできません。

参加要項

参加定員：各80名(お申し込み先着順) ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

申込方法：米原万里没後10年文庫フェアの本、あるいは『姉・米原万里』(井上ユリ著/文藝春秋刊)をご購入いただいた際に、1階カウンターにて参加整理券を差し上げます(参加整理券1枚につき、ひとつの催しにお1人のご入場とさせていただきます)。お電話によるお申込みも承ります(電話03-3281-8201/対象書籍のご購入はイベント当日でも構いません)。